Archives　熊本県立大学　アーカイブズ



松石旧蔵『儀礼』冒頭（第1冊）



道春跋の年紀と松石の識語（第2冊）

渋江松石旧蔵『儀礼』　2冊（寛永9年［1632］跋）

天地元水神社（現菊池市原）の神主で、地誌学者でもあった渋江松石（公正、1743-1814）は、延べ660点の書籍を所有していた。本学図書館上妻文庫には松石旧蔵の「儀礼」2冊が納められており、うち1冊に林道春（羅山）による寛永9年（1632）跋が認められる（右画像）。もとは寛永13年序を備えていた本かもしれないが、その点は不明である。

ともあれ、寛永9年跋を備えた版本『儀礼』は4冊本で、第1冊に巻第一から巻第四、第2冊に巻第五から巻第七、第3冊に巻第八から巻第十二、第4冊に巻第十三から巻第十七を配当する。

一方、上妻文庫本はこれとは異なり、2冊から成る。第1冊は巻第五から巻第七のみが摺りで、その前に巻第一から巻第四の写本を綴じ、摺りの後にも巻第八から巻第十の写本を合綴したもの。第2冊は巻第十一から巻第十七までの摺りである。「渋江家蔵子孫永宝」朱印のほか（左画像）、「渋江公正」の識語を備える（右画像）。

さて、松石は「三礼」（「礼」に関わる三種類の経書：「周礼」「儀礼」「礼記」）のうち、とりわけ「儀礼」を重視したようで、「儀礼」の研究ノートである「儀礼凡例」や、さらにこれを発展させて清書した「儀礼凡例考纂」を編むに至っている。かように松石が「儀礼」を重視したのは、同書が周代の士（周の階級秩序は王・諸侯・卿・大夫・士で、士は日本の武士に相当）に関する礼を中心にまとめられた本であったことから、古学の立場から「士（あるいは日本の武士）の礼」のあり方を求める狙いがあったのであろう。

文学部日本語日本文学科　教授　大島明秀

「春秋彩」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。
いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。
〒862-8502（住所記載不要）
熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当行
FAX 096-384-6765　E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

発行：熊本県立大学
〒862-8502 熊本市東区月出3丁目1番100号
TEL 096（383）2929（代）
http://www.pu-kumamoto.ac.jp/

春秋彩

Shunjusai

vol.65
熊本県立大学広報誌
2026
Autumn



2026年7月19日・20日 オープンキャンパス

CONTENTS

理事長あいさつ …… 2
特集　世界を支える半導体を広く深く学ぶ　2027年度 国内初の半導体学部開設 …… 3
研究活動紹介 …… 7
大学の動き …… 8
後援会だより …… 9
活き活き元気種 …… 10
おすすめの一冊・未来基金の報告 …… 11
熊本県立大学アーカイブズ …… 12

春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

熊本県立大学
Prefectural University of Kumamoto

汎用人工知能(AGI)の時代



人工知能（AI）の進化は目覚ましく、近い将来、人間と同等かそれ以上の幅広い知的能力を持つ「汎用人工知能（AGI）」が実現すると言われています。これから大学に入学する学生たちが社会の第一線で活躍する頃には、AGIが社会のさまざまな場面で活用されている時代になっていることでしょう。

人間の仕事や暮らしの多くが自動化される時代において、人間にはどのような役割が求められるのでしょうか？私は、「社会課題を発見すること」「AGIに的確な指示を与えること」、そして「最終的な意思決定を行うこと」が、人間にしか果たせない重要な役割になると考えています。

熊本には、渋滞、水資源、医療といった社会課題があります。これらの課題を半導体やAIの力によって解決できないでしょうか。

例えば、熊本の交通渋滞は深刻な課題です。渋滞は日本全体の課題でもあり、経済活動への大きな損失や環境負荷の増加を招いています。AI半導体を搭載した自動運転技術や高度な交通管理システムが普及すれば、渋滞の緩和だけでなく、交通事故の大幅な削減も期待できます。

また、熊本は豊かな地下水に恵まれた「水の国」です。そのため、大量の水を必要とする半導体産業の製造拠点として熊本が選ばれました。しかし、水資源は限りあるものであり、環境との共生は重要な課題です。一方で、世界の淡水利用の約7割は農業に使われています。農地に半導体センサやAI技術を導入することで、水の使用量を大幅に削減できることが報告されており、ここでも半導体が大きな役割を果たします。

さらに、日本の国民医療費は増加を続けており、その大きな要因の一つが生活習慣病です。健康状態を継続的に把握できるヘルスケア用半導体やAIを活用した予防医療が普及すれば、医療費の抑制だけでなく、一人ひとりの生活の質の向上にもつながるでしょう。

このように熊本は、先進国が共通して抱える課題に向き合う「課題解決先進地域」ともいえる存在です。ここで生み出された解決策は、「熊本モデル」として日本のみならず世界の課題解決にも貢献できる可能性を秘めています。

本学は、こうしたAGI時代を担う人材を育成するため、来年４月に「半導体学部」を開設します。

半導体を支える微細な物理から、半導体によって処理される膨大な情報までを俯瞰的に理解し、実践的な学びを通じて現実社会の課題に向き合いながらAGIを使いこなせる人材を育てたいと考えています。

そのために必要なのは、知識の習得だけではありません。未知の課題に挑戦する好奇心、多様な経験から得られる洞察力、そして人と社会を理解する力です。AGIの時代だからこそ、人間にしかできない価値を創造できる人材を育てる。それが本学の目指す教育の姿です。









世界を支える半導体を広く深く学ぶ

2027年度 国内初の半導体学部開設

生活のあらゆる場所で利用され、関連企業の熊本県進出により関心が高まっている半導体。この分野の人材育成・確保のため、新学部が創設されます。半導体分野で実績のある研究者や企業人が県立大学に集結します。

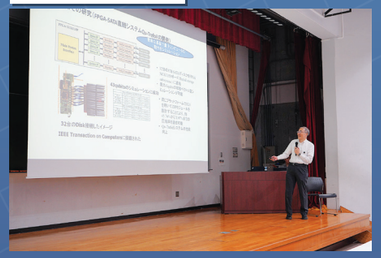
新設される半導体学部では、半導体に関する専門知識にとどまらず、ビジネス、環境、法制度などの幅広い分野を横断的に学習。個人の興味関心に合わせ、深めたい専門分野を選択することができる体制を整えています。地域に根差した半導体人材の育成は、メディアや企業など、多方面から注目を集めています。

半導体学部 初オープンキャンパス

大きな期待と注目を集める新学部の全貌と魅力に迫る

7月20日、半導体学部開設に合わせ、オープンキャンパスが開催されました。会場では、学部概要やカリキュラムの説明のほか、学習内容の体験も。展示・実演ブースでは、半導体学部に就任予定の教員やゲスト講師が、半導体について解説。当日は、多くの来場者が真剣な表情で説明や解説を受け、新学部への期待と関心の高さをうかがわせる一日となりました。

学科説明会





全国初の学部創設の想いと未来

会場には300人を超える高校生や保護者が詰めかけ、立ち見が出るほどの盛況ぶり。参加者はメモを取りながら熱心に耳を傾けていました。学部説明では、半導体がいかに広い範囲で利用されているか、これからの時代における重要性を解説。天野英晴学部長は「世界で半導体の役割が重要になる中で、半導体で何ができるかを、ぜひこの学部へ入学し、広い視点から考えてほしい」と、未来の学生たちへ熱く語りかけました。

トークセッション





県内企業3社が語る学部への期待と、学生へのアドバイス

「半導体学部への期待」をテーマに、県内の半導体関連企業3社と天野学部長によるトークセッションを開催。企業からは「1つの企業でも多様な仕事があり、学部で学んだことを存分に生かせるはず」と学部への期待が語られました。「女性も活躍できる環境があり、女性の視点も重要視している」といった働き方に関する話題も。学部長も「地元企業とは積極的に連携し、地元で活躍できる人材を育てたい」と意欲を示しました。質問コーナーでは、登壇企業が「海外企業との取引が多いので英語は勉強すべき」や「学生時代のうちに、何でも興味を持って調べることが大切」とアドバイス。働く人のリアルな声を聞ける、貴重な機会となりました。

特別講義

知識を得る時代から問いを立てる時代へ

黒田忠広理事長による特別講義のテーマは「AIと半導体」。AIに「知能や意識はあるか」と実際に問いかけた際のやり取りを紹介しながら、AIが質問へ回答し、次の質問につなげる仕組みについて説明。AIの思考が発達したことで、知識がすぐに手に入る時代において「活躍できるのは、自ら問いを立てられる人ではないか」と持論を展開。幅広い知識を学べる環境が整っている新学部について、「興味のある人はぜひチャレンジしてほしい」と集まった学生たちへ呼びかけました。



模擬授業

新学部の学びを先取り

天野英晴学部長による講義で、テーマは「半導体ってなんだろう」。半導体は生活のあらゆる場面に使われ、日常生活に不可欠であるという解説から始まりました。

授業の目標は現代のデジタル回路の主流であるCMOS回路の仕組みについて理解すること。回路の種類や動作の仕組みについて、誰でも分かりやすい丁寧な解説が行われました。参加者は、回路図を見てどのような信号が送られるかを考える模擬問題に挑戦。今得たばかりの知識を使い、頭を悩ませながらも楽しく問題を解いていました。



展示・実演ブース

AI・応用情報

動きで見守るAIエージェント「NOMI」体験

カメラを使わず座標から人の動きを読み取り、生画像不使用で見守りを行うAIエージェント「NOMI」。「見えない家族の一員」としてプライバシーに配慮しつつ、転倒など緊急事態の検出のほか、座位や睡眠などの長期的な行動分析により健康リスクの予測もできます。



AI・応用情報

空間を立体的に捉える「3Dスキャン・ガイド作成」体験

3Dスキャン技術による撮影方法や、3Dガイド生成の実験結果を紹介。欠陥箇所の特定や最適な移動順序の把握を立体的に行い、どのように改善すべきかを分析・検証する実験が解説されました。



AI・応用情報

画像処理研究を解説

画像処理技術に関する研究室の紹介。柵や影・窓反射を除去する技術や、AI生成画像を分類する技術など、多様な研究内容を実際の実験データとともに解説。大学生活の一部である研究室での活動に触れることができました。



マイクロエレクトロニクス/スマートマテリアル

半導体集積回路を顕微鏡で観察

半導体集積回路について、加工技術から動作原理、設計・製造、応用までを基板の実物や画像、解説図を用いて分かりやすく紹介。様々な種類の基板を自由に触りながら顕微鏡で観察できる体験ブースも設置されました。



高校生・保護者の言葉

熊本工業高等学校　1年　男子
普段から電子回路に触れる機会があり、半導体にも興味があったので足を運んでみました。他の学校では見ないカリキュラムは、半導体に関する広い範囲の学びを網羅しており、さらに興味が湧きました。

熊本工業高等学校　1年　男子
気温の上昇に関心があり学校でも学んでいますが、半導体が環境問題とも関わっていることを初めて知りました。元々興味のある分野でしたが、半導体が多様な分野と結びついていると知り、今後どのように発展していくのかさらに深く学びたいと思いました。

熊本高校　3年　男子
半導体学部が新設されることを知り、志望校として含めています。学部説明で詳しいカリキュラムを聞き、知らない知識が次から次に出てきて、学べる内容に近未来を感じました。

熊本北高等学校　3年　男子
熊本で半導体学部を新設する理由や、半導体が関わる仕事について知ることができ、進路の選択肢が広がったと思います。海外企業との取引が多い業界だと講演でお話があったので、英語の勉強を頑張りたいです。

真和高等学校　1年　女子
以前から学園祭などに足を運んでいて親しみのある大学だったので、今回も見に来ました。今まで半導体というものがどういうものなのか、どのように活用されているのか分からなかったけれど、先生の講演が面白く、半導体について少し理解を深めることができました。

真和高等学校　1年　女子　父親
熊本全体が半導体を中心に変化していることを実感しました。県内に関連企業が増える中、地元で半導体を学べる場所ができるのは、子どもの進路の選択幅が広がりますし、業界の担い手を増やすことにもつながるので本当に良いことだと思います。

第二高等学校　1年　女子　母親
新学部がどんな場所なのか気になったので参加しました。今まで半導体は男子が関わるものというイメージがありましたが、興味を持つ女子も多いことを実感しました。今日のことを今後の進路選択にぜひ生かしてほしいです。

半導体を学ぶ、その先へ。世界を動かす人材を熊本から

座談会の詳しい様子は動画で
先生方が熊本県立大学への就任を決めた理由、研究での失敗と乗り越え方、AIを使ったチップ設計、半導体から広がる進路など、紙面では紹介しきれなかった話を動画でお届けします。

2027年4月、熊本県立大学に半導体学部が開設されます。新学部で教育・研究に携わる天野英晴先生、丹羽正昭先生、奥原颯先生に、学部の特徴や熊本で学ぶ魅力、研究の面白さを聞きました。



半導体を「作る」から「どう生かすか」まで

新しい半導体学部には、どのような特徴がありますか。

天野教授　我々の学部では、半導体をどう使うかというアプリケーションから、回路、コンピューターアーキテクチャ、材料、製造に加え、ビジネスや法制度、知的財産、環境問題などを幅広く学びます。何を作り、どう社会に役立てるかまで考えられる人を育てたいと思っています。

丹羽教授　これまでの半導体教育は、どちらかといえばデバイスを作る「半導体工学」が中心でした。技術を生かすアプリケーションやビジネスを十分に育てる人材を育てるために、社会や経済の視点も含めた「半導体学」をつくっていく。それが、この学部の大きな意味だと思っています。

熊本だから、世界につながる学びができる

今、熊本で半導体を学ぶことには、どんな可能性がありますか。

丹羽教授　熊本は、日本の中でも半導体のインフラが特に整った地域です。地図に円を描けば、東京より台北が近く、上海やソウルにも近い。世界的な半導体製造拠点であるアジアとつながる場所として、大きな可能性があります。

奥原准教授　TSMCの進出に加え、県全体で半導体産業を後押ししていることも大きいですね。チップを作るには設備も費用も必要です。企業などと連携し、ものづくりに触れられる環境が身近にあることは、学生にとって大きな強みになると思います。

天野教授　熊本を、台湾の新竹やアメリカのシリコンバレーのような場所に育てたいと思っています。学生たちがここで学び、企業と連携して新しいシステムを作る。アイデアからスタートアップが生まれ、まちも発展していく。まだこれからですが、熊本には、その土台が十分にあると思っています。

始まりは「なぜ？」という好奇心

先生方が現在の研究分野に進んだきっかけを教えてください。

丹羽教授　高校生のときに初めて「半導体」という言葉を聞き、導体でも絶縁体でもないとはどういうことだろう、と不思議に思ったのが始まりです。江崎玲於奈博士がトンネルダイオード※1の研究でノーベル物理学賞を受賞したことも強烈でした。また、走査型トンネル顕微鏡※2を使い、初めてシリコンの原子像を見たときの感動が忘れられません。きれいに並ぶ原子を見た経験は、今も研究の原動力です。

天野教授　僕は高校時代、アマチュア無線に夢中でしたが、交信より電波の増幅器をどう作るかに興味がありました。大学時代、ICを買ってきて基板に配線し、自分でコンピューターを作りましたが、複雑な回路が一発で動いたとき「自分はデジタルの世界に向いている」と感じました。動いた瞬間の面白さが、今につながっています。

目指す相手は、世界にいる

最後に、高校生へメッセージをお願いします。

奥原准教授　少し目線を高く持ってほしいですね。半導体の世界に入れば、海外のトップスクールで学ぶ学生たちも競争相手になります。教員と学生が力を合わせ、世界に食い込んでいきたい。ここで学ぶなら、「相手は世界」という気持ちを持ってほしいです。

丹羽教授　海外の研究機関では、さまざまな国の人が一つのチームで働くことが当たり前でした。世界には優秀な人がたくさんいますが、海外だからと恐れる必要はありません。熊本から世界の半導体産業へ打って出る、そんな大志を持ってほしいと思います。

天野教授　半導体学はとても幅が広い学問です。材料を学んでみて違うと思ったら、回路やAI、プログラミングを選ぶこともできる。入学時点で専門を決めてしまう必要はありません。まず基本と設計する力を身につけ、学びながら自分が本当にやりたいことを見つけてください。

注釈
※1　トンネルダイオード：電子が通常は越えられない障壁を通り抜ける「トンネル効果」を利用した半導体素子
※2　走査型トンネル顕微鏡：細い針を物質の表面に近づけ、原子レベルの凹凸を調べる顕微鏡

登壇者プロフィール

天野 英晴 教授（学部長）　慶応義塾大学、東京大学を経て、熊本県立大学へ。専門は情報工学

丹羽 正昭 教授（学科長）　松下電器工業（株）を経て、筑波大学へ。その後、東北大学、東京大学から熊本県立大学へ。専門は応用物理学、電気電子工学

奥原 颯 准教授　ボローニャ大学、シンガポール国立大学などを経て、熊本県立大学へ。専門は電気電子工学



研究活動紹介

共通教育センター／総合管理学部・情報専攻
准教授　堀 一輝

データから「人の変化」と「因果関係」を考える

目に見えない心理特性をどう測るか？

「学力は伸びたのか」「意欲は変化したのか」「ある経験は、その後の成長にどうつながったのか」。教育や心理に関わる研究では、アンケートやテスト、実験などを通して集められたデータを使って、こうした問いに答えようとします。しかし、本当に知りたいのは、点数や回答そのものではなく、その背後にある学力や意欲のはずです。私の研究では、こういった目に見えない人間の特性を測定する方法、中でも、人の成長や変化を正しく捉えるための方法を研究しています。例えば、同じ人を長期間にわたって調査すると、「人による違い」と「同じ人の中での違い」が混ざった結果が得られます。この二つの違いを区別しないと誤った結論や施策に繋がる可能性が高まるため、データのばらつきを個人間の違いと個人内の違いに分解する方法を研究しています。

次の図1は、個人間の関係と個人内の関係の違いを図示したものです。個人内の関係と個人間の関係を区別しない場合、タイピングスピードとその正確性（誤字の少なさ）の関係は、破線の楕円のように、右上がりに分布することが多いため、「タイピングスピードが速いと正確性が高くなる（誤字が少なくなる）」のように解釈してしまいそうになります。しかし、この解釈は直感に反していますし、誤っています。実際は、右下がりの実線の楕円で表されている各個人が右上がりに並んでおり、①「平均的に速くタイプできる人」は、正確性も平均的に高い、②「自分の平均と比べて」タイピングスピードが速いときは、正確性が低くなるといったように、個人間の関係（青線）と個人内の関係（赤線）を区別して解釈するのが正しいデータの見方になります。

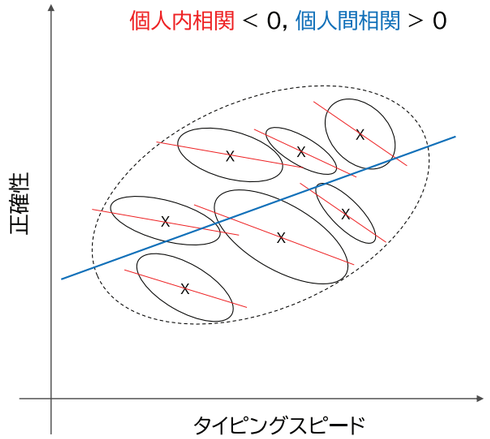
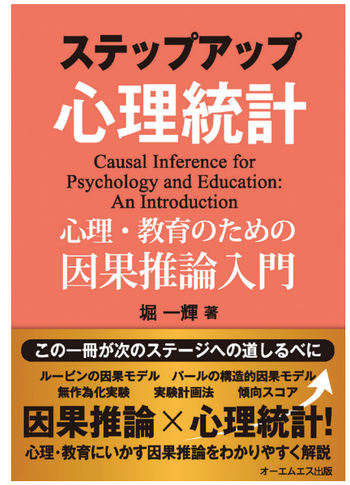


図1. 個人間の関係と個人内の関係が逆向きになる例

相関と因果のあいだ

その他、近年は因果推論に関わる研究も行っています。「この授業方法は学習成果を高めたのか」「ICT機器の利用は学生の理解を深めたのか」。こうした問いに答えるには、単に二つの変数の関連を見るだけでは不十分です。関連があることと、一方が他方の原因であることは同じではありません。観測された差や関連を因果効果として解釈するためには、そのための前提を検討しなければなりません。例えば、比較する二つのグループが元々どの程度似ているのか、結果に影響する別の要因がないかなどを考えます。このたび上梓した拙著『ステップアップ 心理統計』では、心理学や教育研究で因果的な問いに向き合うための考え方を、心理統計学の「測定の妥当性」の観点から整理しました。



数値の背後にある経験へ

データを使うことで、経験や直感だけでは見落としやすい変化や関係に気づくことができます。一方で、データ解析は「正解」を自動的に出してくれる魔法の杖ではありません。問いを立て、前提を意識し、結果を慎重に解釈して初めて、人や社会を理解する力になります。数値の背後には、人の経験や行動があります。それらを精確に測り、「何が人々の心理や行動を引き起こしているのか」という問いに向き合うために、測定とデータ解析の方法を日々研究しています。

プロフィール

バージニア工科大学教育学部博士課程修了
Ph.D.（教育研究・評価）
2024年より現職

大学の動き

ネーミングライツ事業を開始

本学では今年度から新たにネーミングライツ事業を開始し、保有施設等の有効活用による自己収入の拡大及び教育研究環境の向上に努めています。

2026年5月8日には、最初のネーミングライツ契約を締結した株式会社肥後銀行様と合同で報告会を開催し、「大学会館」の愛称を「くまモン！Payラウンジ」、「大ホール」の愛称を「ひごミライホール」と発表しました。



くまモン！Payラウンジ（大学会館）前で開催された報告会



ひごミライホール（大ホール）

ドゥ.ヨネザワ企業グループの株式会社DNSと共同研究契約を締結しました

ドゥ.ヨネザワ企業グループの株式会社DNSと「湯の谷プロジェクト」に関する共同研究契約を締結し、4月10日（金）に本学において締結式を行いました。

「湯の谷プロジェクト」は、熊本地震で倒壊した南阿蘇の「湯の谷リゾートホテル」跡地を「森へかえす」ことで人と自然が共生する場を目指しています。この研究は在来種にあふれた草原の創出のために、環境共生学部の斎藤達也准教授が中心となり在来植物を定着させることを目的としています。



「MONTANA DAY」を開催しました

2026年6月23日、国際教育交流センターは、モンタナ州立大学ビリングス校（MSUB）から、学長のStefani Gray Hicswa氏をお招きし、「MONTANA DAY」を開催しました。

Hicswa学長は、ビリングス市やMSUBの魅力について、スライドを用いて紹介されました。質疑応答では、学生からモンタナの観光地や、MSUBのBFF (Billings Friendship Family)に関する質問のほか、英語力に不安のある学生に向けた留学のアドバイスなど、多くの質問が寄せられました。

イベント終了後も、学生たちはHicswa学長に積極的に自己紹介や質問を行うなど、活発な交流が見られました。学長は学生一人ひとりに丁寧に対応され、参加者にとって大変有意義な時間となりました。



最前列左から、Morrowセンター長・MSUB Hicswa学長・MSUB Foster国際部部長

第1回東区まちづくりアワードで最優秀賞を受賞！

2026年5月25日に開催された第1回東区まちづくりアワードにて、総合管理学部の西森ゼミが活動に参画している「ぺんぎんマーケット」が最優秀賞であるグラン・ド・エン賞に選ばれました。西森ゼミでは、熊本市社会福祉協議会と協働し、毎回のぺんぎんマーケットで児童向けワークショップやeスポーツ体験など、子どもたちや親世代、高齢者世代まで楽しめるブースを展開しています。



左から竹原さん（総合管理学部4年）、西森教授

後援会だより

《就職対策事業》

- 就職対策講座（公務員試験対策）の助成、資格取得及び講座受講等助成　他
- 就職活動（インターンシップ等）経費（交通費及び宿泊費）の一部助成、各学部・学科・専攻で行うキャリア形成支援事業助成、在学生就職アドバイザー配置支援、TOEIC®IP学内試験への実施支援、就職・進学用写真代助成、保護者用就職ガイドブック作成配付　他

《学生活動支援事業》

- サークル活動費助成、白亜祭・ＰＵＫリンピック開催経費助成、インカレ出場助成、全国大会等出場助成　他
- キャンパス活動支援、学生用カラーコピー機の設置、コピーカード配布・販売、予防接種費用助成　他
- 学生のリクエストに応じ図書を購入し図書館へ配置　他

《国際交流推進事業》

- 海外留学助成、留学対策講座助成、留学生による学生等向け語学講座開講支援、国際交流事業助成　他

《教育研究推進事業・その他》

- 共同自主研究への助成、現地学習バス借上助成　他
- 卒業式のガウン貸与、記念品贈呈　他

タイ・カセサート大学短期研修団との文化交流

本学の学術交流協定校であるタイのカセサート大学短期研修団が来校し、本学学生との交流を目的とした日本文化を体験するプログラムを実施しました。プログラムの一環として、6月2日には「デコ巻き寿司作り体験」、6月5日には「生け花体験」を開催しました。

「デコ巻き寿司作り体験」では、タイの学生のサポートを本学学生が行い、互いにコミュニケーションを取りながら巻き寿司作りに取り組みました。完成した巻き寿司を切ると、美しい「桃の花」の模様が現れ、参加者から歓声が上がりました。

巻き寿司作りの後には、味噌汁や日本茶とともに試食会を開催しました。両国の文化の違いについて会話が弾み、交流を深める機会となりました。完成した巻き寿司は、見た目の美しさだけでなく味も好評でした。

また、別日には「生け花体験」を実施しました。講師の先生の説明を受けながら、学生たちは夏を感じられる5種類の花を使い、それぞれの感性や個性を生かした作品を完成させました。制作中には互いの作品を褒め合う姿も見られ、終始和やかな雰囲気の中で日本の伝統文化に親しむことができました。

後援会は、この取組みを国際交流推進事業で助成しています。





活き活き元気種

このコーナーでは地域で活躍する熊本県立大生の声をお届けします。



Nコンで1位から3位を獲得した3名

MR研究会

代表者　山本佳奈（やまもと かな）
文学部日本語日本文学科 3年

執筆者　エイベル花良マイカ（かーら）
文学部日本語日本文学科　2年

「声」という魅力

みなさんこんにちは！　熊本県立大学唯一の放送系サークル、MR研究会です。MRとは「メディアラジオ」の略称で、普段の活動ではラジオ番組風トークをしたり、発声や滑舌のトレーニングや原稿読みを行ったりと、「声」に関する活動をメインに行っています。

MR研究会の魅力は、自分を広げる道がたくさんあることだと思っています。具体的な例をいくつかピックアップしていきます。MR研究会からは毎年数名がNHK全国大学放送コンテストに出場しています。昨年度は光栄なことに、アナウンス部門にて第一位、第二位、第三位をいただきました。

また、熊本県立大学の学園祭、白亜祭では飲食物の出店を行ったり、再春館製薬所様の社内ラジオに協力させていただいたりと、幅広い活動を行っています。大学に入学し、勉学に励むことがもちろん一番の目的です。ですが、授業以外の時間でしか作れないかけがえのない経験を積んだり、人間関係を築いたりできるのがサークル活動の醍醐味だと思っています。

MR研究会では先ほど述べた特別なイベントの他に、普段の活動の中にも未知なる道が潜んでいることを気づかせてくれます。ラジオ風トークを通して趣味の話に花を咲かせたり知らなかった世界の扉を見つけられたり、新しい自分らしさや定番を見つけることができます。

人と人との間で交差していく声が、自分だけの音色を響かせた声が、風に乗って世界を旅するように私たちの耳に届きます。じっくりと観察してみると、声はその中に感情や真実をのせて、想像以上に眩しい色彩――個性とも呼べる――を持っているのだとわかります。

気管を通った息が声帯を震わせ、口や鼻で響いて、舌や唇の微細な動きで言葉を紡ぎ、情報として処理されていきます。当たり前に使っている「話す」という行為を、「声」という仕組みを、フォーカスして注意深く掘り下げていくと、その洞窟の中にはこんなにも個性や表現力が隠れていることを、ぜひ覚えていていただければ幸いです。



オープンキャンパスで司会を勤める様子



再春館製薬所の方々との顔合わせ

おすすめの一冊

土地は誰のものか ― 人口減少時代の所有と利用　著者：五十嵐敬喜

弁護士で都市政策学者の五十嵐敬喜氏の著書『土地は誰のものか』は、人口減少時代の空き家・所有者不明土地問題の根底に、明治期以降の「絶対的土地所有権」があると指摘しています。土地を個人の自由な財産とし、放置や景観破壊すら原則「合法」としてきたことが今日の状況を招いたというのです。

これに対し著者は、土地を地域社会のコモンズ（共有財）として共同管理する「現代総有」への転換を主張しています。江戸時代の入会地のような共同体の歴史は過去のものではありません。近年の労働者協同組合法の制定やコンパクトシティ構想の法制度化などに基づき、複数人や地域による土地利用権が明文化されるなど、日本社会も少しずつ「現代総有」の方向へ進んでいるそうです。

本書を通じ、境界を越えてコミュニティスペースを創出し、共同体で運営していくという私自身の取り組みが、時代の方向性と合致していることを確認できました。

出版社：岩波書店　出版年：2022年
ISBN-13：978-4004319146





環境共生学部
環境共生学科
居住環境学専攻
准教授
鄭 一止

熊本県立大学未来基金への御協力に心より御礼申し上げます。

未来基金寄附者御芳名（2025年度実績）

個人：5件、法人・団体等：3件、古本募金：9件

1 個人

100万円 帆足 恭子
※お名前のみ掲載
21回生 食物学科 有志、24回生 有志、黒木 誉之
※お名前・金額の掲載を希望されなかった方　1件

2 法人・団体等

200万円　熊本県立大学同窓会紫苑会（令和7年度分として）
※お名前・金額の掲載を希望されなかった方　1件

23万8千円　オンラインチャリティイベントGiving Campaign

個人寄附者
※お名前の掲載を希望されなかった方　25件

パートナー企業
株式会社SHIFT、ソフトバンク株式会社、株式会社ディー・エヌ・エー、株式会社ギブリー、株式会社サンキュードラッグ、TDK株式会社、株式会社マキタ、株式会社フォレストコーポレーション、株式会社ワールドホールディングス、吉川工業グループ、入交グループ、愛知トヨタ、株式会社岡部機械工業、化研テクノ株式会社、株式会社キット、株式会社高知銀行、小倉セメント製品工業株式会社、サイエンスパーク株式会社、GMOインターネット株式会社、シャボン玉石けん株式会社、株式会社新大倉、STATION Ai株式会社、第一交通産業株式会社、大英産業株式会社、テック情報株式会社、株式会社トインクス、株式会社なかやしき、株式会社西日本シティ銀行、ネッツトヨタ南国株式会社、株式会社八十二銀行、株式会社肥後銀行、株式会社姫野組、株式会社ヒューマンクリエイション、株式会社松本コンサルタント、三村鉄工株式会社、宮地電機株式会社、株式会社メルカリ、株式会社山口フィナンシャルグループ、株式会社レーザーシステム、味の素食品北海道株式会社、株式会社アステック入江、株式会社阿波銀行、株式会社NDK、帯広信用金庫、サンテクノ株式会社、四国計測工業株式会社、株式会社七十七銀行、芝浦グループホールディングス株式会社、株式会社TTK、株式会社徳島大正銀行、株式会社トークネット、ニッポン高度紙工業株式会社、日本鉄塔工業株式会社、濱田重工株式会社、ひまわりネットワーク株式会社、株式会社フタガミ、ミタニ建設工業株式会社、宮坂建設工業株式会社、株式会社山本忠信商店、株式会社リョーワ

古本募金（件数のみ記載）

9件

未来基金活用実績（2025年度実績）

学生支援	同窓会紫苑会奨学金	1,900,000円
海外留学支援	小辻梅子奨学金	625,000円
食料品等の配布事業		1,000,000円
サークル等学生団体の支援		199,590円

基金創設（2009年9月）以来の寄附金総額は、
164,083,705円となりました。
（※受取利息は含まない。）